



2025年10月10日
第046号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

10月10日号

10月10日。81年前の今日、沖縄の地は焼け野原と化した。沖縄本島を含む南西諸島広範囲への無差別爆撃、いわゆる「十・十空襲」によるものだ。八時間にも及ぶ空襲により沖縄県那覇市では市街地の9割が燃えつき、死傷者は1400人を超えた。那覇市の港近くにあった祖父母の家屋も焼け落ちたと聞く。

当時、空襲に対して政府広報などでは「焼夷弾での火災はできるだけ火元に近づき水をかける、初期消火が大事」などと指導していた。しかしながらほとんどが木造建築の上に焼夷弾の燃焼温度は900度を超え、油性の燃料が含まれている為に水での消火は難しかった。その上、十・十空襲以前から「バケツを持って焼夷弾に近づくことはできない」との指摘を議会等から受けながらも、政府はこの指摘を無視し続けていた。それどころか当時の防空法では空襲時の避難の禁止と消火義務が課せられていた。空襲を受け政府からの「命令」を元に初期消火を行うも、無惨に焼け落ちていく家や街を見て当時の人は何を思ったのだろうか。国が言っていることだからと信じた人もいただろう。一方でそんなはずはないと思っていた人もいただろう。たとえ自分や家族の命が空襲によって危険にさらされたとしても、非国民のレッテルを貼られることを恐れて葛藤の中で空襲に怯えながら毎日を送っていた人もいたのではないだろうか。

現代、私たちに当時のように言論の自由がないわけではない。出された情報を鵜呑みにせずに正誤を確かめることもできる。うまい話には裏があるように出された情報の真意に対して健全な懐疑心を持つことが必要とされている。その上で間違っていることは間違っているとと言えるし、おかしいと思ったことにはおかしいのではないかと問いただすことができる権利を有している。その権利を放棄することは、自己の尊厳を放棄することと同義である。

言われるままに信じること、従うことの危険性は過去が教えてくれている。自己の尊厳と命を守る為に何ができるか。一人ひとりの小さな声を大きな力へ変えるために労働組合へ結集しよう。(Ai)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行います。